

次期オリンピック開催地ギリシャ原産の健康素材 “マスティック” 全国300件以上の歯科医院で使用

特集 マスティック

■ ピロリ菌に対し強い効果

ピロリ菌は現在、日本人の約半数にあたる6000万人が感染しているといわれ、40歳以上では80%が感染者だ。近年、患者の低年齢化が深刻な問題になっている。ピロリ菌は胃や十二指腸の粘膜を傷つけることで胃潰瘍や胃炎を引き起こすと見られ、胃ガンの発ガン因子ともいわれる細菌だ。そのピロリ菌に効果があるとしてマスティックが医療の現場で利用されている。

マスティックとはギリシャの南東部エーゲ海に面したヒオス島だけに自生する木（コシヨウボク）から採取した樹脂のことだ。粘度が高く、木が病気や外的から自らを守るために分泌している。ギリシャでは5000年以上前から樹液をガムのように噛む習慣があり、その習慣をもつ地方の人々は消化器疾患が極めて少ないことが知られている。

マスティックが世界的に注目されるようになったのは1998年12月、英国の医学誌『New England Journal of Medicine』に「マスティックガムはピロリ菌を殺す」という論文が発表されたことがきっかけだ。

日本では静岡県立大学食品栄養科学部微生物学教室において、胃ガン、胃潰瘍、消化器疾患など、様々な由来のピロリ菌に対し、マスティックは強い抗菌作用があることが確認された。

■ グラム陰性菌のみを強力に殺菌

ピロリ菌に対し強力に作用するマスティックだが、歯周病菌にも効果があることがわかっている。「ピロリ菌は歯周病菌と同じグラム陽性菌の仲間。マスティックがピロリ菌に効果があるのであれば、当然、歯周病菌にも効果があるはずです。」（もろずみ歯科・両角明紀良院長）。

歯周病は日本人の薬80%が罹患しているといわれ、歯の喪失の原因になるほか、歯周病細菌に起因する肺炎や血管炎に伴い、循環器障害が生じることもある恐ろしい病気だ。

神奈川歯科大学・口腔細菌学教室では2000年4月、MIC試験を実施し、マスティックは歯周病に対する強い抗菌作用を持つことを確認。

マスティックが歯周病に有効な理由は殺菌力の強さだけではない。細菌に対する選択性を持つ。「歯周病で問題になるのは善玉菌とグラム陰性菌のような悪玉菌のバランス。善玉菌まで殺菌すると、口腔内の細菌バランスがくずれ、免疫力を低下させてしまいます。マ

スティックは善玉菌にはあまり作用することなく、アクチノバシラス・アクチノミセテム
コミタンスなどのグラム陰性菌のみを抑制する傾向があります。」(とつかグリーン歯科・
渡辺秀司院長)。

“抗菌”を訴求した健康食品が数多くある中、マスティックはその強力な抗菌力と、細
菌に対する選択性で突出したものがある。また、臨床効果など豊富な機能性データもある。

口腔内の歯周菌

写真2枚 各コメント下記

- ・ 歯周ポケットに付着した *Porphyromonas gingivalis* 菌の走査電子顕微鏡写真 (18,000 倍)
- ・ 右半分は通常時の唾液、左半分はマスティックジェルを使用した後の唾液を採取しそれぞれ繁殖させた写真